

平成 30 年 8 月 20 日

月刊 HANADA 編集部御中

東京都港区南麻布 4-12-9

著述家 菅野完

貴誌取材と称する取材活動に対する当方コメントの差し替えについて

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日、三品純と名乗る人物が、事前連絡なく拙宅に來訪し、貴誌先月号掲載の記事に対する反論コメントなどを求めてこられました。同氏は貴誌の取材活動であると主張しましたが、同氏からは頂戴した 2 種の名刺にはどちらにも貴誌の記者であることを示す情報がありません。また、インタビューが進むにつれ、取材前の下調べが Wikipedia をはじめとするネットの情報に依拠したものに過ぎないことも次第に判明し、取材そのもののレベルも「この人物が本当に HANADA のライターなのか？」という疑問を強く抱かざるを得ない品質のものでした。事前の取材依頼も所属を示す情報の開示もなく、取材活動の内容も上記の通り商業誌レベルとは思えぬものであり、当方は今に至っても、当該人物が本当に貴誌の取材活動に従事しているのか確認できずにあります。

さらには、雑誌編集の世界で功成り名遂げた花田紀凱氏が主宰する『月刊 HANADA』が、「本人に直当て取材することなく一方的な記事を掲出した後にその本人に反論コメントを求める」などという、小学生新聞でさえやらないような段取りが悪く脇の甘い仕事をするとは考え難く、取材当日も、本件取材活動が本当に貴誌のものであるのか最終的な判断がつかねるまま取材をうけることとなった次第です。

そこで、微に入り細に入る返答は控え、

「月刊 HANADA に反論するのは、月刊ムーに反論するほどに無粋なこと」

というコメントを出し、三品氏には帰っていただきました。

しかし、熟慮するに、このコメントは『月刊ムー』および株式会社学研プラスに対し極めて失礼であると判断し、下記の通りコメントを差し替えます。

「月刊 HANADA に反論するのは、東京スポーツに反論するほどに無粋なこと」

以上のとおり、当方のコメントを差し替えますので、なかなか考え難いことではありますが、もし万が一、三品氏が本当に貴誌の依頼でご取材されておられるのであれば、記事執筆や編集の際、ご参考いただければ幸いです。

末筆ながら、総合娯楽誌「月刊 HANADA」および編集部ご一統様の今後益々のご健勝を祈念します。

敬具